



UTCP セミナー

カントの歴史哲学

理念の歴史性をめぐって

カントの歴史哲学といえば、『永遠平和のために』等、晩年のいくつかの著作があげられる。しかし、彼は青年期の『天界の一般自然史』に見られるように、最初期から大規模な歴史哲学的構想を抱いていた。とはいえ、主著の『純粋理性批判』には、一見、そのような意識の形跡はうかがえない。というのは、そこで問題となっているのは、時間性や歴史性とは無縁な純粋理性という能力であり、「理念」という時間を超えた概念だからである。しかし、そこには盲点がある。なぜなら、理念は今現在実現されていないからこそ理念ではあるが、同時に、理念は自らを実現することを要求する概念であり、実現へのプロセスは、必然的に、時間を、したがって歴史を要求するからである。これは一種のパラドックスである。本セミナーでは、そのようなパラドックスを解く鍵として、「永遠平和」という理念を引き合いに出しながら、カントの歴史哲学に光を当てる。

2008年12月10日（水） 16:30～18:30

東京大学駒場キャンパス 18号館4F コラボレーションルーム3

講演者：石川文康（東北学院大学） 司会：森田團（UTCP）

使用言語：日本語 入場無料 事前登録不要

主催：東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）」